

急性 Crohn 病の初期治療としての成分栄養療法：対照試験

Elemental diet as primary treatment of acute Crohn's disease: a controlled trial: Morain, Ó, Segal AW, Levi AJ (Br Med J 288: 1859-1862, 1984)

この研究は Crohn 病の急性期に、成分栄養投与による治療を対照試験によって検討した最初の報告である。Crohn 病の急性増悪は普通 prednisolone や免疫抑制剤や手術によって治療されている。今回、Crohn 病急性期21人の患者をランダムに2群に分け、10人に0.75 mg/kg/day の prednisolone 治療、11人には紅茶とコーヒーのみ許可し、Vivonex の成分栄養投与で治療を行った。両群とも4週で80%の寛解を認め、成分栄養投与群もステロイド治療群に匹敵する効果を示した。両群を比

較すると体重は治療開始4週後と3か月後でステロイド治療群が一貫して増加し、成分栄養投与群は減少または横ばいであった。ただステロイド群は4週後も10~20 mg/day の投与を受けており、成分栄養群は終了後治療は全く受けていない。ヘモグロビン濃度は3か月後で成分栄養群のみ維持され、アルブミンは両群とも明らかに増加し、血沈も改善した。

著者らは成分栄養治療を行った患者のこのような改善は、単に入院したという安心感による効果とは考えられず、アメリカでの Crohn 病共同研究では、プラセボによって寛解したものが30%にしかすぎなかったことから推定される。Crohn 病は低栄養となりやすく、栄養治療は Crohn 病の初期治療のうえで非常に重要である。そして腸管を休ませるということが寛解を得るために基本

的に必要とされている。著者らは、① Crohn 病は腸が潰瘍を作りやすい素質を持つ、② 損傷腸管壁に異質な蛋白が通過するため二次的に免疫反応が起こる、病因として以上の2つの要素を考えている。食事成分は上部小腸でほとんどが吸収され、Vivonex を使用することは食事内容物と消化酵素が、炎症や潰瘍を持つ腸管に接触することを防ぐパイパスとして働き、外因性蛋白と潰瘍粘膜の間でアレルギー反応を起こすことを防いでいると推測している。

以上より、著者らは結論として Crohn 病の急性増悪に対する成分栄養治療は非毒性で治療効果があり、従来の手術や薬物に替わるものと考えている。

(愛知県がんセンター第1内科
横田史津子 抄)